

2022年3月期
第2四半期 決算説明資料

2021年10月27日



四国化成工業株式会社

証券コード：4099

目次

I.	2022年3月期第2四半期決算概要	P3
II.	2022年3月期 予想	P13
III.	長期ビジョン Challenge 1000	P16
	「STAGE 1」進捗状況	
IV.	新組織体制について.....	P27
V.	参考資料	P32

I. 2022年3月期 第2四半期

決算概要

I - 1. 概況（通期）

1

売上高は前期比7.9%の増収、当期純利益は同52.9%の増益となった。コロナ禍以前との比較においても売上高は過去最高を記録した一昨年同期に次ぐ結果となり、利益面でも当期純利益で過去最高を記録した。

2

化学品事業は、無機化成品、有機化成品、ファインケミカルの全てのサブセグメントで前期を上回り、売上高は前期比14.8%の増収、セグメント利益は同69.6%の増益となった。

3

建材事業は、コロナ禍の影響が続いており、売上高は前期比5.9%の減収、セグメント利益は同20.9%の減益となった。

I - 2. 業績概要

■ 連結経営成績

(百万円)

	2021/3 2Q		2022/3 2Q		増減額	増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	23,408	100.0%	25,266	100.0%	1,858	7.9%
営業利益	2,609	11.1%	3,795	15.0%	1,186	45.5%
経常利益	2,822	12.1%	4,116	16.3%	1,294	45.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,924	8.2%	2,943	11.6%	1,019	52.9%
為替レート (円/US\$)	107		110			
為替レート (円/EUR)	120		131			

- ・ 売上高は、建材事業はコロナ禍の影響が続いており低調となったが、化学品事業は回復基調で前年を大きく上回った。全体では前期比+7.9%増収となり、過去最高を記録した一昨年同期に次ぐ結果となった。
- ・ 利益面も、化学品事業の販売数量の増加、販売単価の上昇等により営業利益以下で前期比増益となった。なお、当期純利益は第2四半期としては過去最高となっている。
- ・ 為替レートは、ドル、ユーロともに円安になり、売上に対する為替影響額は前期比+261百万円のプラスとなった。

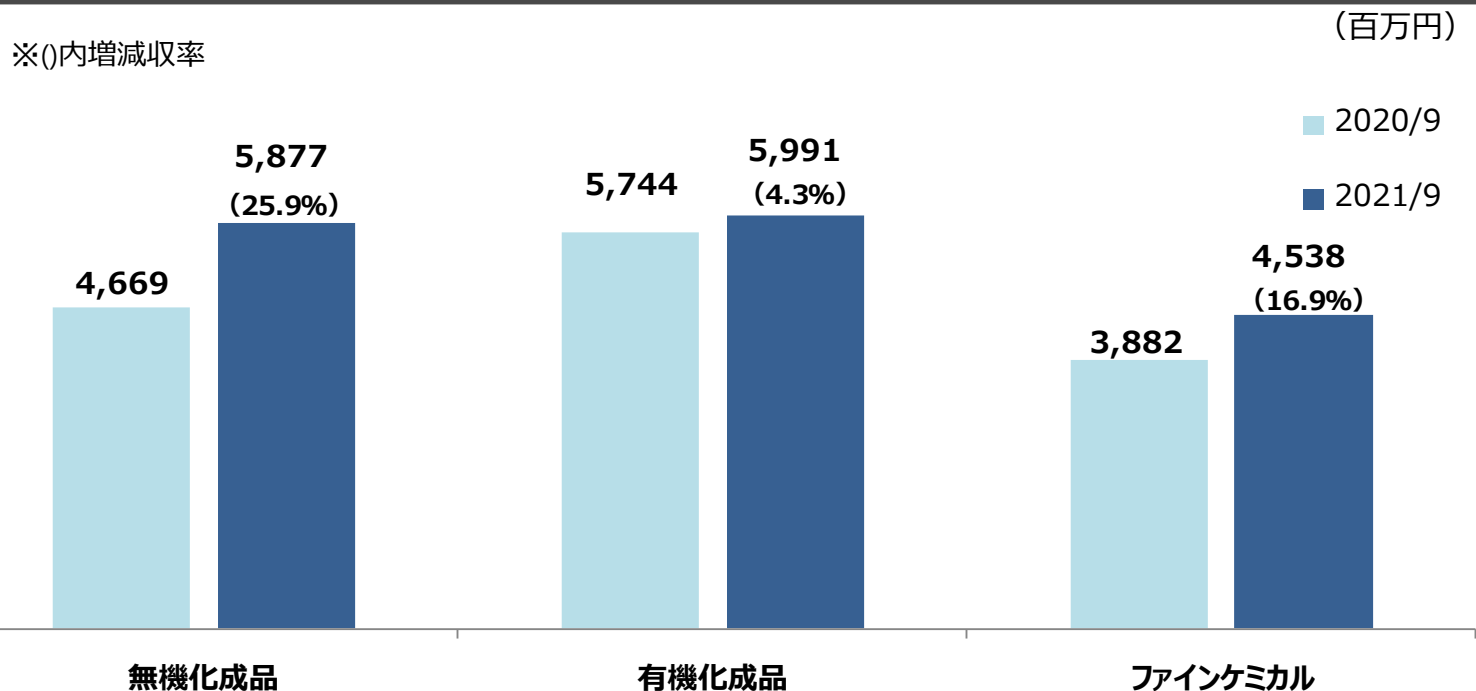
I - 3. セグメント別業績

(百万円)

売上高		2020/9	構成比	2021/9	構成比	増減率
化学品事業	無機化成品	4,669	19.9%	5,877	23.3%	25.9%
	有機化成品	5,744	24.5%	5,991	23.7%	4.3%
	ファインケミカル	3,882	16.6%	4,538	18.0%	16.9%
	小計	14,297	61.1%	16,407	65.0%	14.8%
建材事業	壁材	710	3.0%	672	2.7%	▲ 5.3%
	エクステリア	8,001	34.2%	7,527	29.8%	▲ 5.9%
	小計	8,711	37.2%	8,199	32.5%	▲ 5.9%
その他事業		399	1.7%	660	2.5%	64.9%
全社合計		23,408	100.0%	25,266	100.0%	7.9%

セグメント利益		2020/9	構成比	2021/9	構成比	増減率
化学品事業合計		2,131	81.7%	3,614	95.2%	69.6%
建材事業合計		1,337	51.2%	1,058	27.9%	▲ 20.9%
その他		▲ 859	▲ 32.9%	▲ 877	▲ 23.1%	2.0%
全社合計		2,609	100.0%	3,795	100.0%	45.5%

I - 4. セグメント別売上高概況 (化学品)

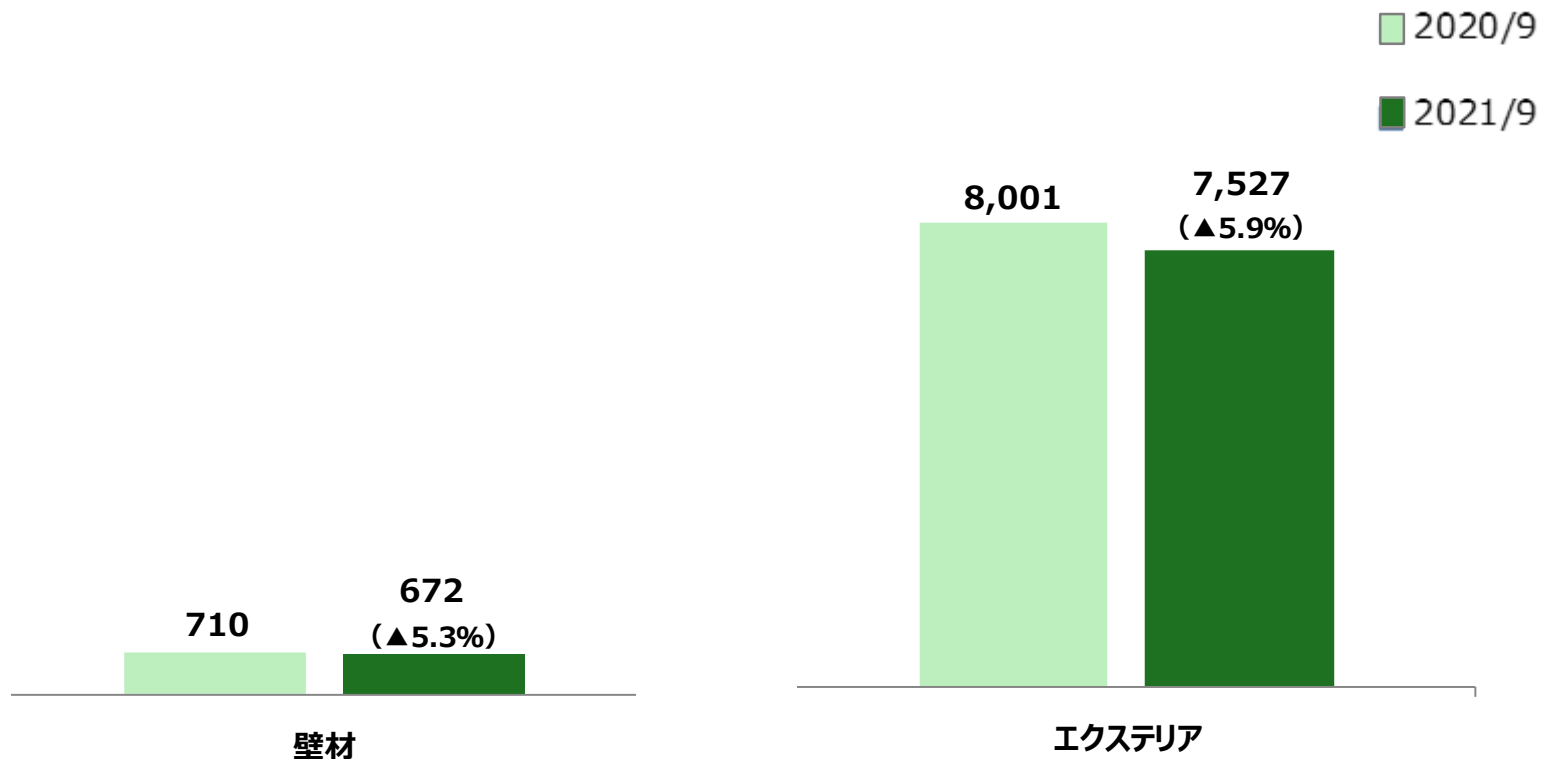


- ◆無機化成品は、不溶性硫黄が、前期下半期以降、自動車、タイヤの需要が急回復し、販売は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた前期を大きく上回った。レーヨン・セロハン向けの「二硫化炭素」、入浴剤・合成洗剤向けの「無水芒硝」も、コロナ禍からの反動増で前期を上回った。
- ◆有機化成品は、国内市場は、学校プール授業の一部再開によるプール薬剤の販売の回復、家庭の衛生意識の高まりからくる除菌・洗浄需要の増加を受け、水回り設備向け薬剤が好調となった。米国市場は、経済状態の回復や巣ごもり需要により家庭用プール市場が拡大を続けており、好調に推移した。
- ◆ファインケミカルは、機能材料が電子部品用途や自動車用途の需要が回復したことから前年を上回った。プリント配線板向けの水溶性防錆剤タフエースは、世界的なエレクトロニクス市場の成長を背景に、堅調に推移した。

I - 5. セグメント別売上高概況 (建材)

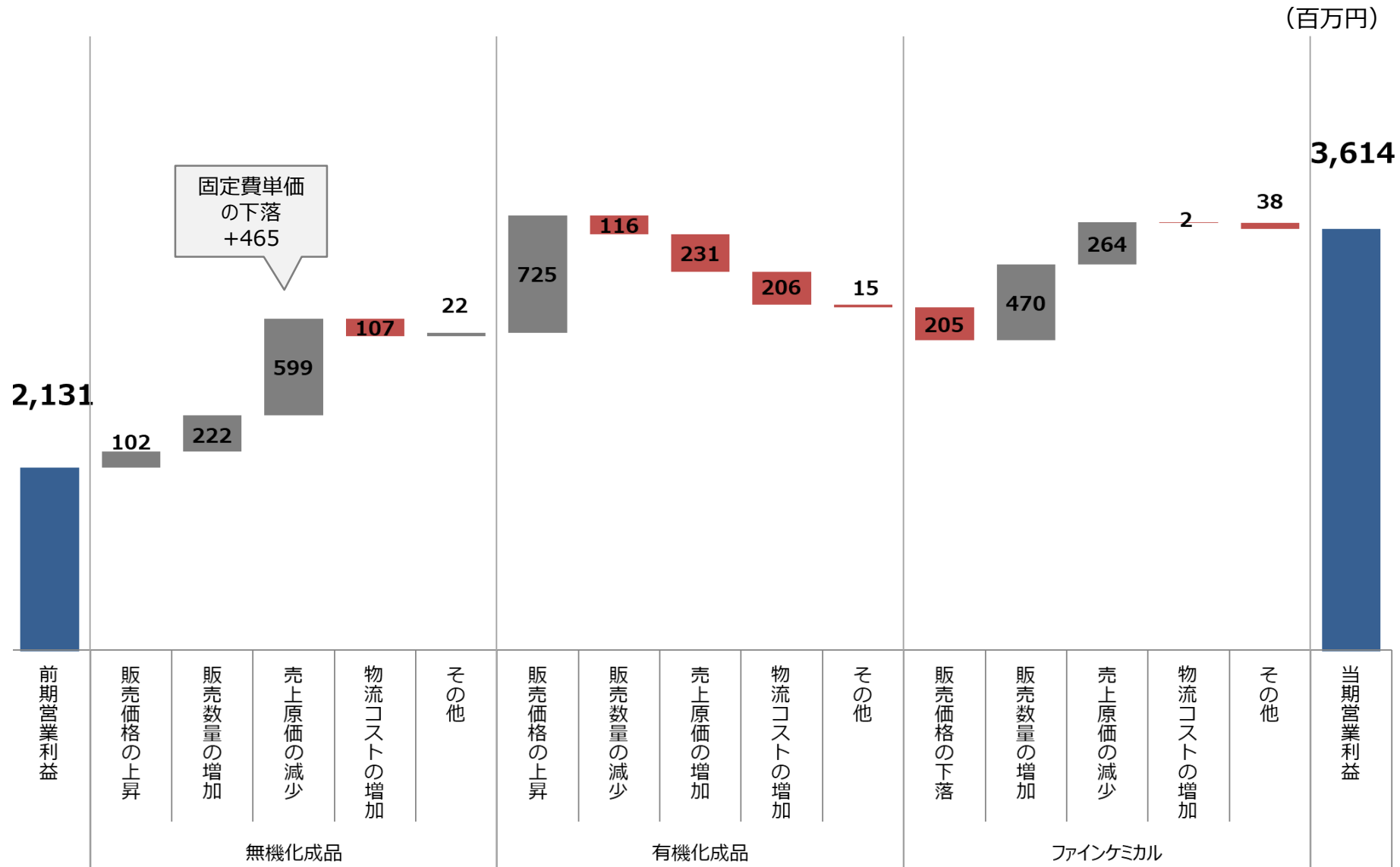
※()内増減収率

(百万円)

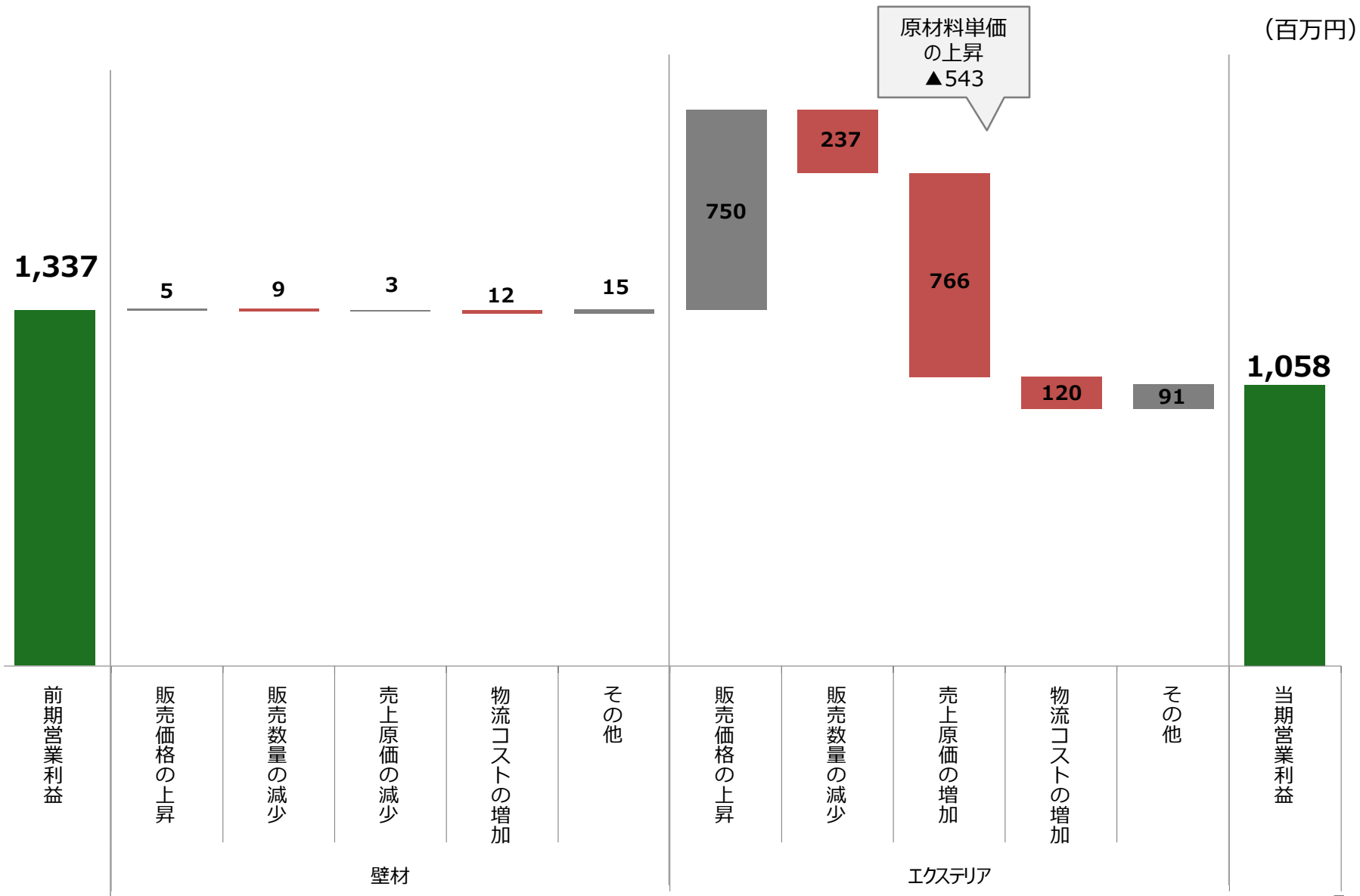


- ◆ 壁材、エクステリアともに新設住宅着工戸数はやや持ち直しの傾向がみられたものの、公共事業や民間企業の設備投資は、緊急事態宣言下における内需の低迷や先行き不透明感を背景に、先送りや様子見基調が続いており、販売は低調に推移した。

I - 6. 化学品セグメント利益 増減分析



I - 7. 建材セグメント利益 増減分析



I - 8. 連結貸借対照表

(百万円)

	2021/3	2021/9	増減	備考
流動資産	65,024	61,981	▲ 3,043	現金・預金 (▲1,230) 、 受取手形及び売掛金 (▲1,254)
固定資産	42,319	43,816	1,497	機械装置及び運搬具 (+987)
資産合計	107,344	105,798	▲ 1,546	
流動負債	15,702	14,721	▲ 981	
固定負債	15,075	13,524	▲ 1,551	退職給付に係る負債 (▲1,559)
負債合計	30,778	28,246	▲ 2,532	
純資産合計	76,566	77,551	985	利益剰余金 (+990)
負債・純資産合計	107,344	105,798	▲ 1,546	
自己資本比率	70.5%	72.5%	2.0%	
ROE	7.9%	7.7%	▲0.2%	

I - 9. キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	2020/9	2021/9
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,093	2,275
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,043	▲626
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,289	▲1,928
現金及び現金同等物の増減額（▲は減少）	▲279	▲230
現金及び現金同等物の期末残高	32,327	36,977
フリーキャッシュ・フロー = 営業活動CF-投資活動CF	2,050	1,649

◆営業活動によるキャッシュ・フローは、22億75百万円のキャッシュイン。

主な収入要因：税金等調整前当期純利益（41億35百万円）、売上債権の減少（16億32百万円）

主な支出要因：退職給付信託の設定額（15億円）、法人税等の支払額（14億15百万円）

◆投資活動によるキャッシュ・フローは、6億26百万円のキャッシュアウト。

主な収入要因：有価証券の償還による収入（20億円）

主な支出要因：有形固定資産の取得による支出（16億81百万円）

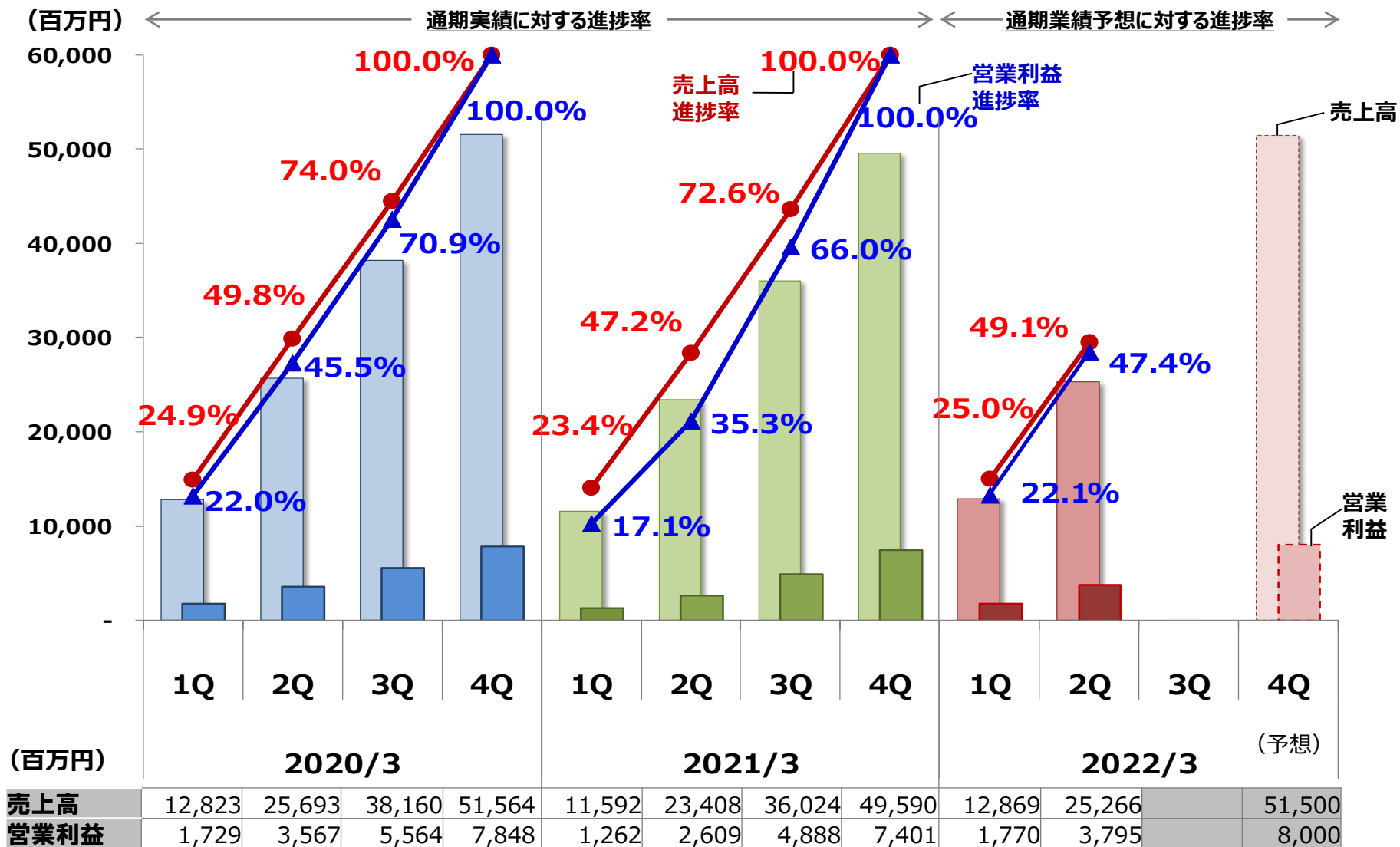
◆財務活動によるキャッシュ・フローは、19億28百万円のキャッシュアウト。

主な収入要因：長期借り入れによる収入（1億円）

主な支出要因：自己株式の取得による支出（12億90百万円）

Ⅱ. 2022年3月期 予想

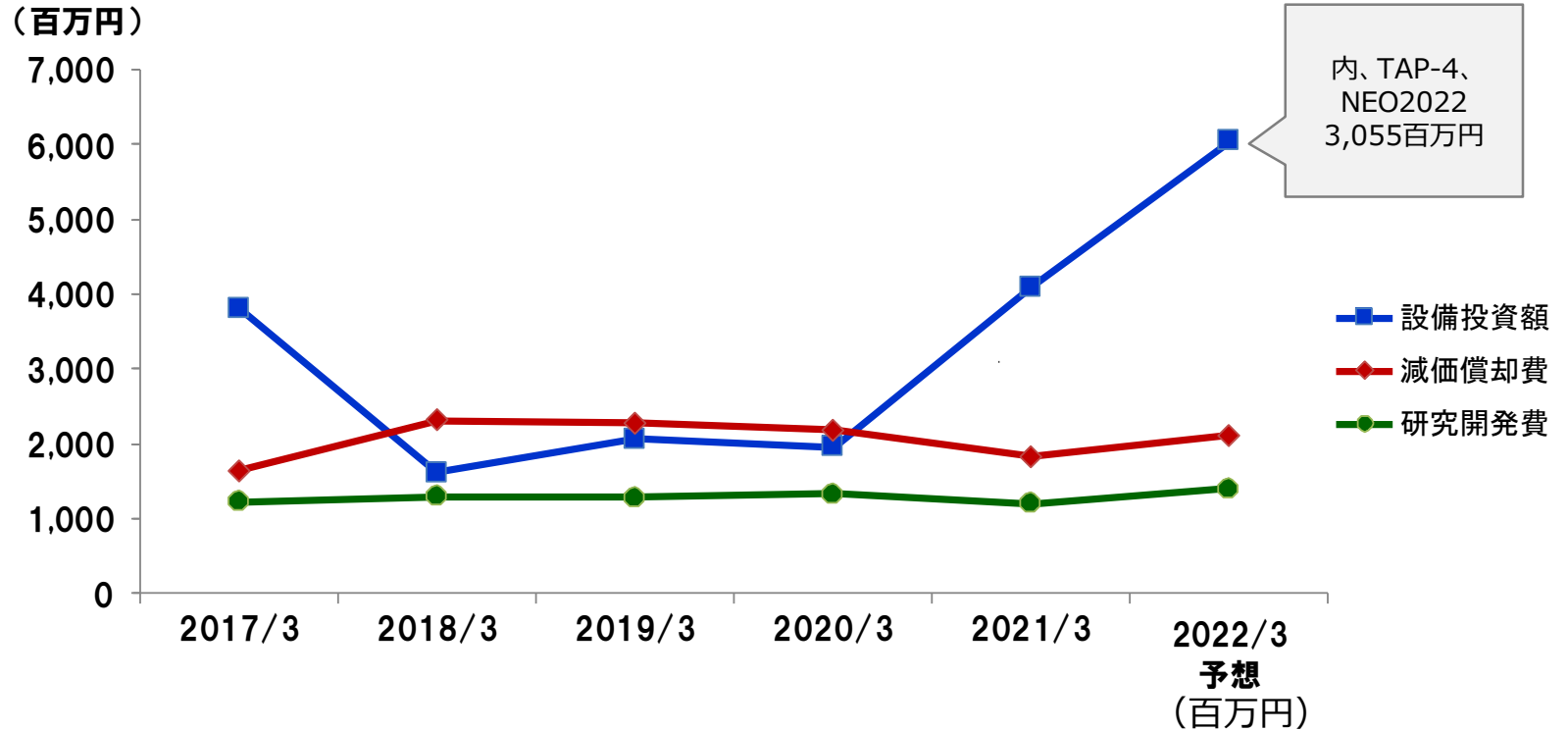
Ⅱ - 1. 通期業績予想 (連結)



■ 想定為替レート：105円/米ドル、128円/ユーロ

■ 通期業績予想については、期初時点の発表からの修正なし

Ⅱ - 3. 設備投資額、減価償却費、研究開発費 (連結)



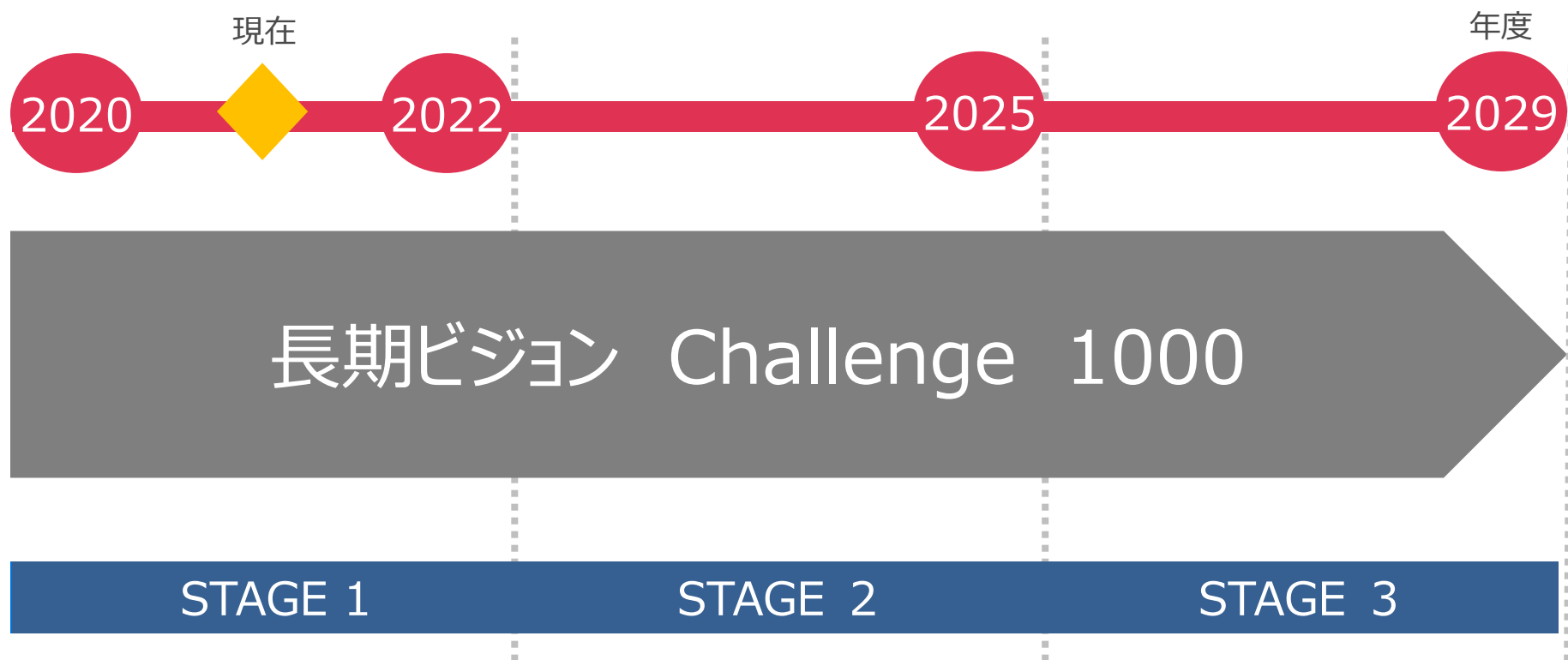
	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3 予想
設備投資額	3,815	1,628	2,073	1,961	4,106	6,058
減価償却費	1,645	2,318	2,281	2,189	1,835	2,121
研究開発費	1,235	1,310	1,295	1,338	1,207	1,412

Ⅲ. Challenge 1000

「STAGE 1」

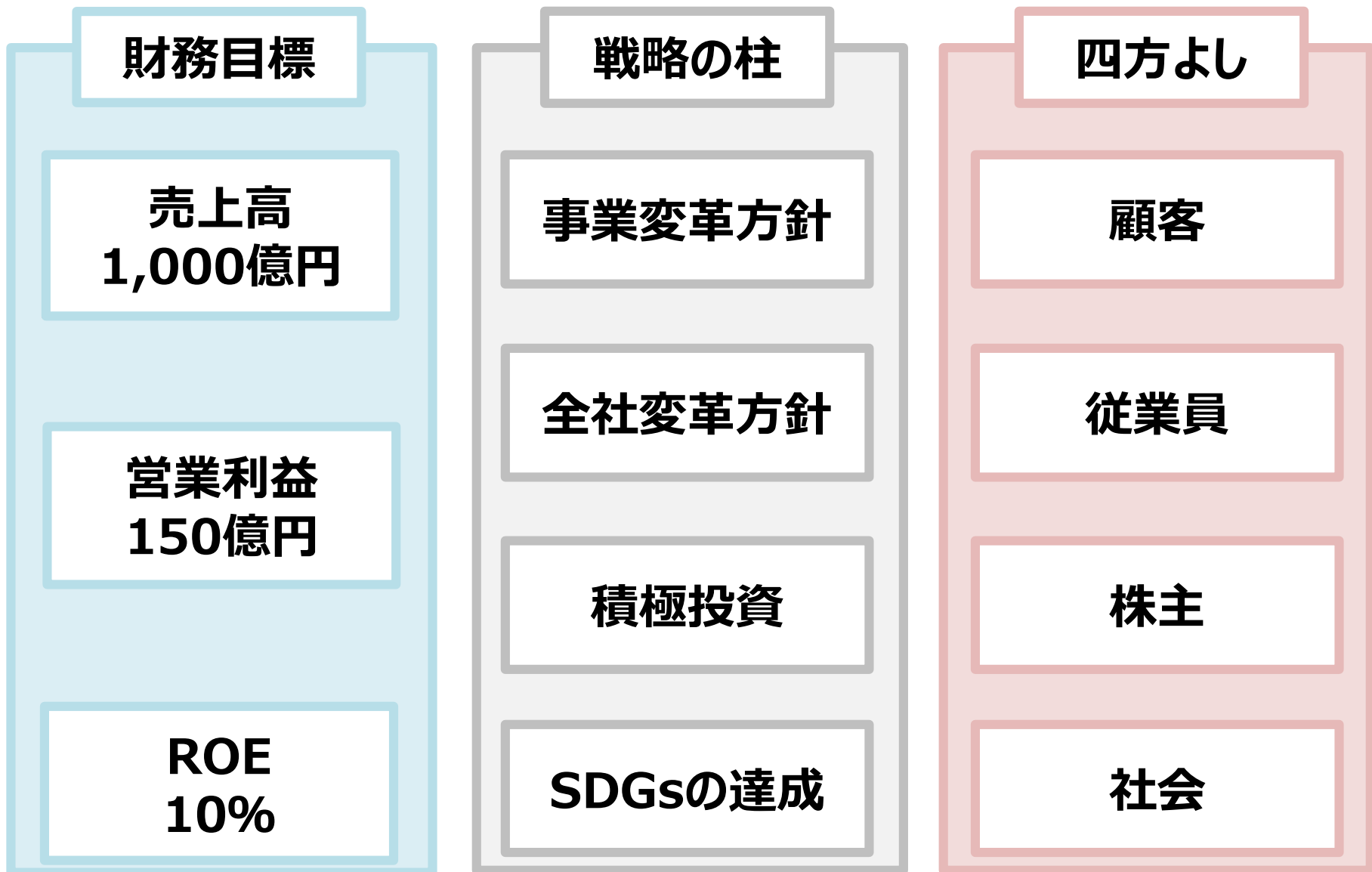
－進捗状況－

Ⅲ - 1. Challenge 1000の概要①



長期的な目指す姿を描き、将来的なテーマへ取り組み、成果を得ることを目指す

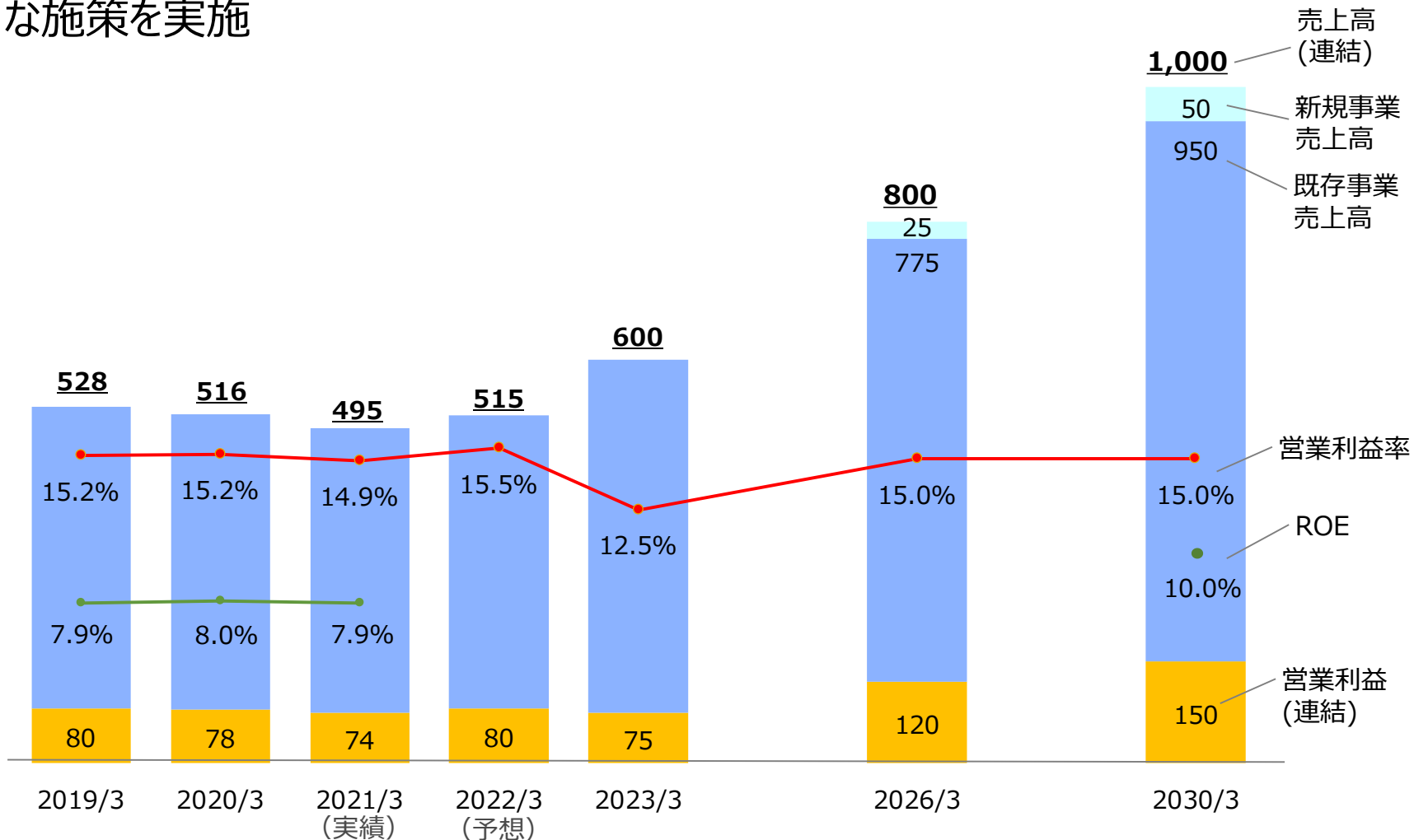
Ⅲ - 2. Challenge 1000の概要②



Ⅲ - 3. 財務目標

各STAGEで設定した目標達成に向けて、戦略の柱に即した様々な施策を実施

(億円)



Ⅲ - 4. 進捗総括 (2020年度～2021年度2Q)

財務目標

◆新型コロナウイルスの影響があったものの回復

- ・2021年度はコロナ禍からの回復局面の業績として2019年度並みの予想。
- ・現時点で売上高の進捗は計画から遅れているものの、営業利益や営業利益率は計画を達成する見込み。

投資 ・ 事業

◆生産設備への投資を計画通り実施

- ・ファインケミカル事業の生産設備 (TAP-4) は完成し、稼働開始。
 - ・有機化成品事業の塩素化イソシアヌル酸の生産設備は予定通り建設中。
- ⇒ファインケミカルは最先端フォトレジスト向け材料の生産強化、有機化成品は生産銘柄の生産自由度の向上が可能となる。

四方よし

◆各ステークホルダーへの貢献活動を実行

- ・顧客：四国化成品質*に則った製品を提供
- ・従業員：挑戦風土の醸成に向けた環境を整備
- ・株主：自社株買いの実施、プライム市場へ上場予定。
- ・社会：経常利益の1%を社会貢献に活用、
地域イベントへの協賛 (第75回香川丸亀国際ハーフマラソン大会等)

*四国化成品質：四国化成グループが、お客様に提供する製品・サービス・価値の全ての活動に対する品質のこと。
製品品質のみならず、サービス等にも力を入れ、ブランド形成を目指す。

Ⅲ - 5. 進捗状況（事業変革方針）

来期2022年度は「STAGE 1」の最終年度。
目標の達成と「STAGE 2」でさらなる成長を目指していく。

事業名	トピックス	STAGE 1目標
無機化成品事業	<ul style="list-style-type: none">不溶性硫黄の品質向上の取り組みを継続硫黄起点の開発品の事業化検討	連結売上高140億円 (2021/3実績104億円)
有機化成品事業	<ul style="list-style-type: none">生産設備の充実（バルク品、ODM品等）サニタリー分野の強化	連結売上高100億円 (2021/3実績107億円)
ファインケミカル事業	<ul style="list-style-type: none">機能材料：半導体プロセス材料のニーズ対応の強化。樹脂改質剤の新規用途（低誘電、CFRP）開拓タフエース：ノンハロゲンかつ長期保存安定性を実現した新規OSPの販売を目指すGliAS：タフエース自動分析装置を取扱開始。トータルソリューション提案を目指すGliCAP：承認活動、実績化	連結売上高80億円 (2021/3実績87億円)
建材	<ul style="list-style-type: none">高強度の商品を武器に営業活動の強化デジタル化、システム化、自動化による生産効率を向上できる環境を整える	連結売上高250億円 (2021/3実績187億円)

Ⅲ－6．進捗状況（全社変革方針）

多様な働き方に対応する基盤づくり、自ら変革していくという意識の醸成や仕組みづくりに取り組んでおり、概ね計画通りに進んでいる

項目	トピックス
価値づくり	<ul style="list-style-type: none">◆ブランド価値の向上（四国化成品質を策定）◆環境に対する取り組みの強化（CSR報告書の作成）◆新規事業創出に向けた取り組みの実施（社内公募の実施）
余力づくり	<ul style="list-style-type: none">◆テレワークの推進等、業務の効率化への取り組みを実施・働く場所にとらわれず、効率的な働き方ができるテレワークを推進
拠点づくり	<ul style="list-style-type: none">◆営業拠点の集約
組織づくり	<ul style="list-style-type: none">◆目指すべき組織体制決定に向けて検討を開始・持株会社体制への移行（詳細P27）
風土づくり	<ul style="list-style-type: none">◆長期ビジョンの浸透、部門間の壁をなくす交流活動を実施・ワークショップ、座談会等イベントの開催
人財づくり	<ul style="list-style-type: none">◆社員が積極的に挑戦できるような環境を整備 （加点方式の挑戦目標を導入など、評価制度の見直し）

Ⅲ-7. 戦略の柱（積極投資）

半導体プロセス材料

◆ファインケミカル マルチプラントの稼働開始（TAP-4）

IoTや車の自動運転化などから、半導体の需要が高まっている。半導体プロセス材料などを製造開発するメーカーから、高品質で高機能な材料に対するニーズが拡大。

最先端半導体プロセス材料などに向け、低金属管理などの高い品質に対応した設備を持つプラント（TAP-4）が、2021年7月より稼働開始。次世代半導体の深化に対応するEUV（極端紫外線）フォトリソト関連材料等の製品化を進めていく。



TAP-4（徳島工場）

塩素化イソシアヌル酸

◆徳島工場北島事業所に塩素化イソシアヌル酸 新プラントを建設（NEO2022）

世界では、船舶の往来によるバラスト水によって、水生生物の越境移動による生態系への影響が深刻化。また清潔な水の確保が困難な地域も多く、水の衛生環境の改善など、社会課題の解決も求められている。

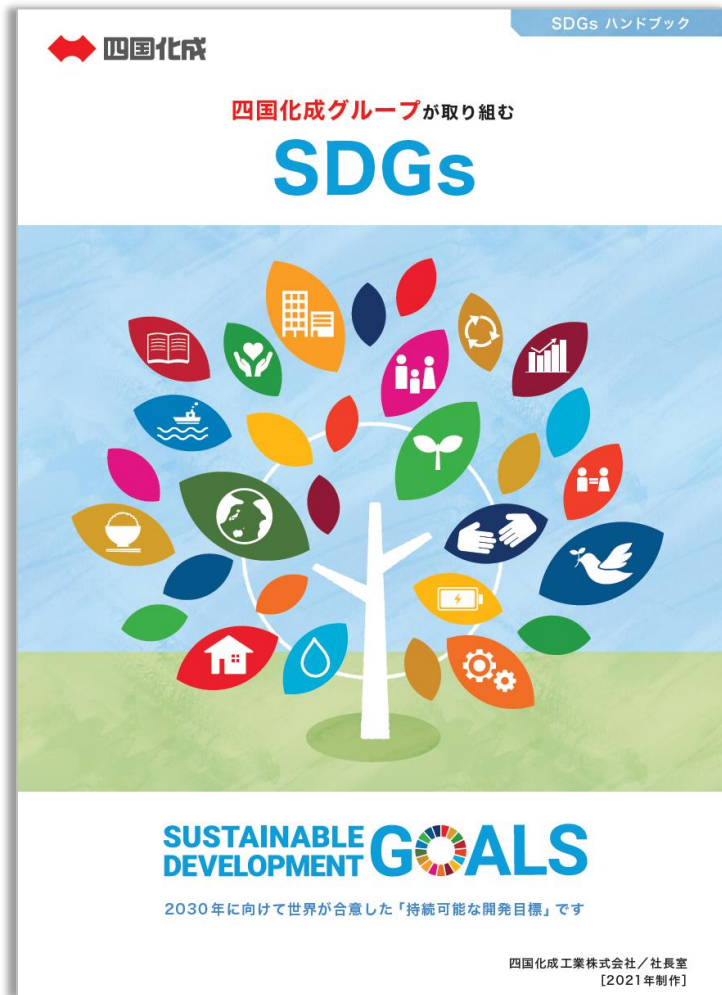
水環境改善など、塩素化イソシアヌル酸の更なる需要拡大に対応するため新たなプラントの建設を決定。

投資額 約50億円、2020年9月着工済、2022年4月竣工予定。



Ⅲ-8. 戦略の柱（SDGsの達成）

◆SDGsハンドブックを作成し、ホームページに掲載



「SDGsハンドブック」では、当社の各事業がSDGsのどのゴールに関係しているのか、また、どのような社会課題の解決に貢献しているのかを紹介しています。

Ⅲ-9. 戦略の柱（SDGsの達成）

化学品事業



・**有機化成品事業**は、人々への安全な水の提供と海洋環境保全に貢献。

⇒殺菌、洗浄、漂白技術で世界中の人々に良好な衛生環境を提供しています。

建材事業

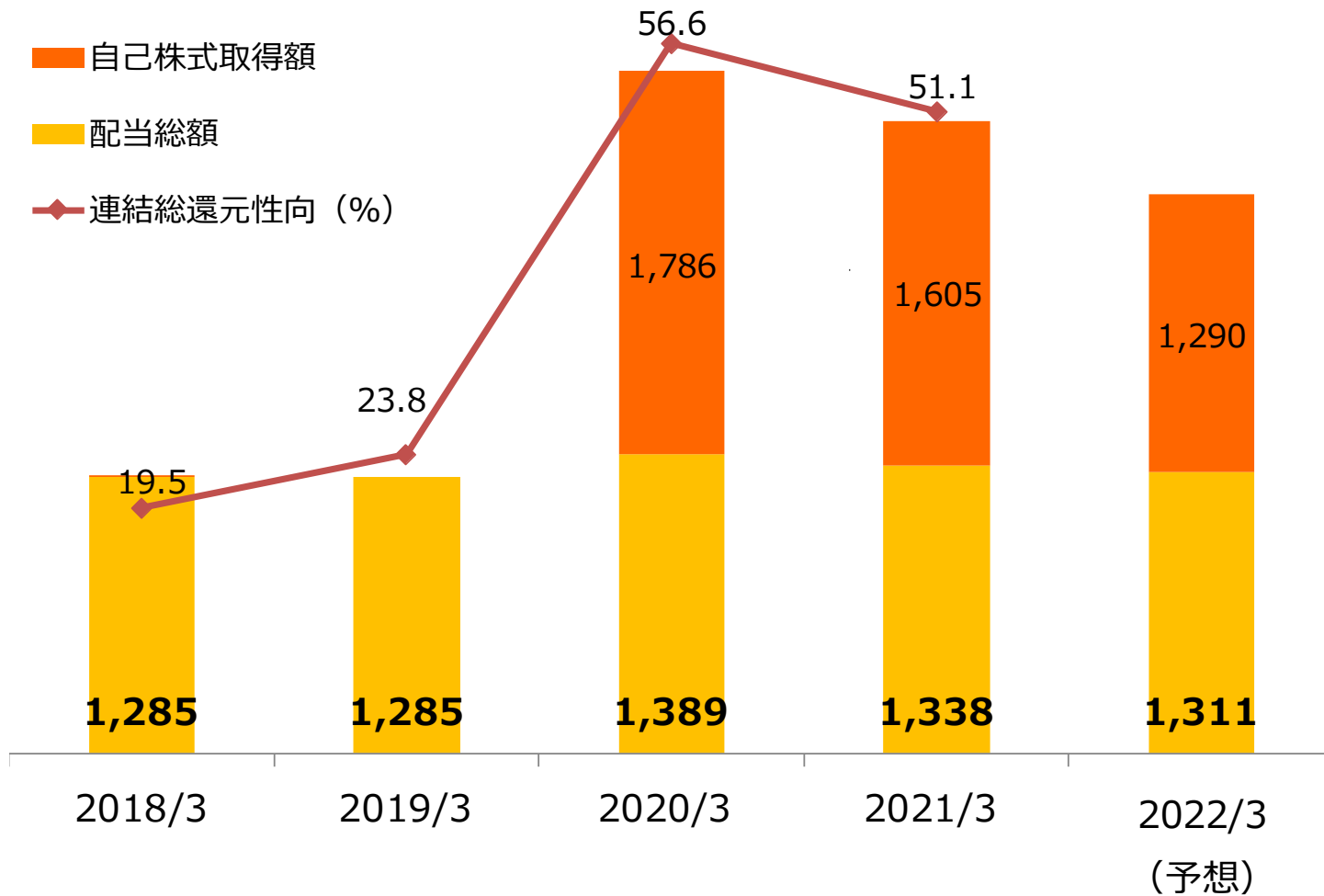


・人々が安心・安全に暮らしていけるまちづくりに貢献。

⇒**景観・住宅エクステリア**は、建築基準法にも適合した設計を行い、高い安全性を確保しています。

⇒**内装材**は、人や環境に優しい材料を用いており、健康な生活が送れる空間を提供しています。

Ⅲ - 10. 株主還元 -配当推移-



1株あたり 配当金(年間)	22.0	22.0	24.0	24.0	24.0
------------------	------	------	------	------	------

IV. 新組織体制について

IV-1. 持株会社体制への移行①

2023年1月より持株会社体制へ移行すべく準備を開始する。

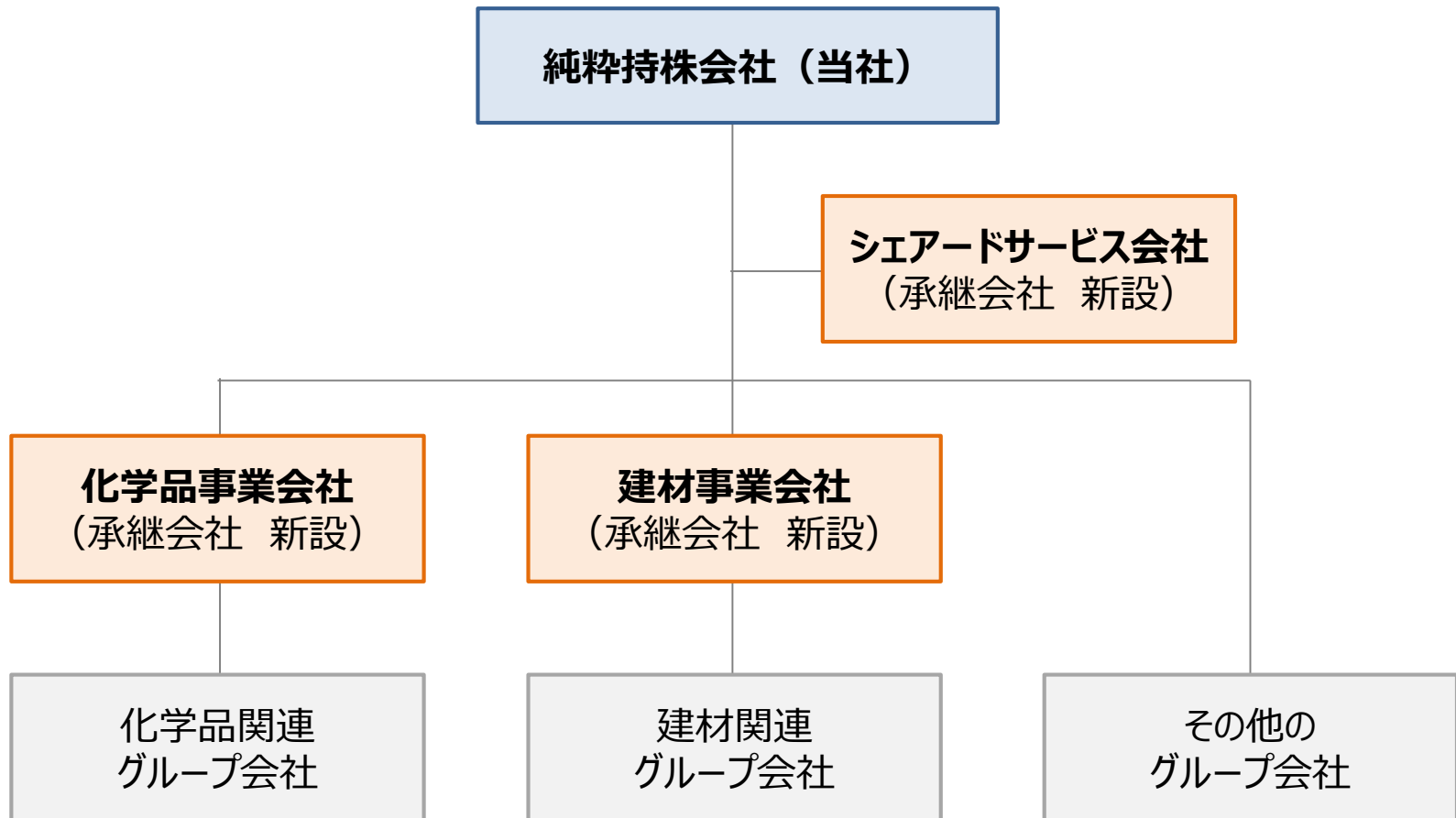
目的

- (1) 事業運営体制の強化
各事業会社に対し、大胆に権限移譲することで、意思決定を迅速化
- (2) ガバナンス体制、本社部門の役割再定義
持株会社をグループ経営機能に特化
本社間接部門を分社化のうえ重複業務の解消と最適化
- (3) 経営人財の育成強化
持続的な経営力強化の観点から、自律性を持った事業会社の運営の中で、
将来の経営人財育成を推進

事業環境の変化、課題への対応のため
グループ体制の強化と意思決定の迅速化を実現する。

IV-2. 持株会社体制への移行②

【移行後のグループ経営体制イメージ】



IV-3. 持株会社体制への移行③

◆持株会社体制への移行スケジュール

	2022年			2023年
	1月	4月	6月	1月1日
持株会社体制 移行スケジュール	持株会社移行 準備会社設立	吸収分割契約を 取締役会承認	株主総会特別 決議	新会社への権利 義務の承継 持株会社 体制スタート

新しい経営体制のもと「Challenge 1000」を達成し、
百年企業に向けた飛躍を確実なものとする。

ご清聴ありがとうございました

V. 參考資料

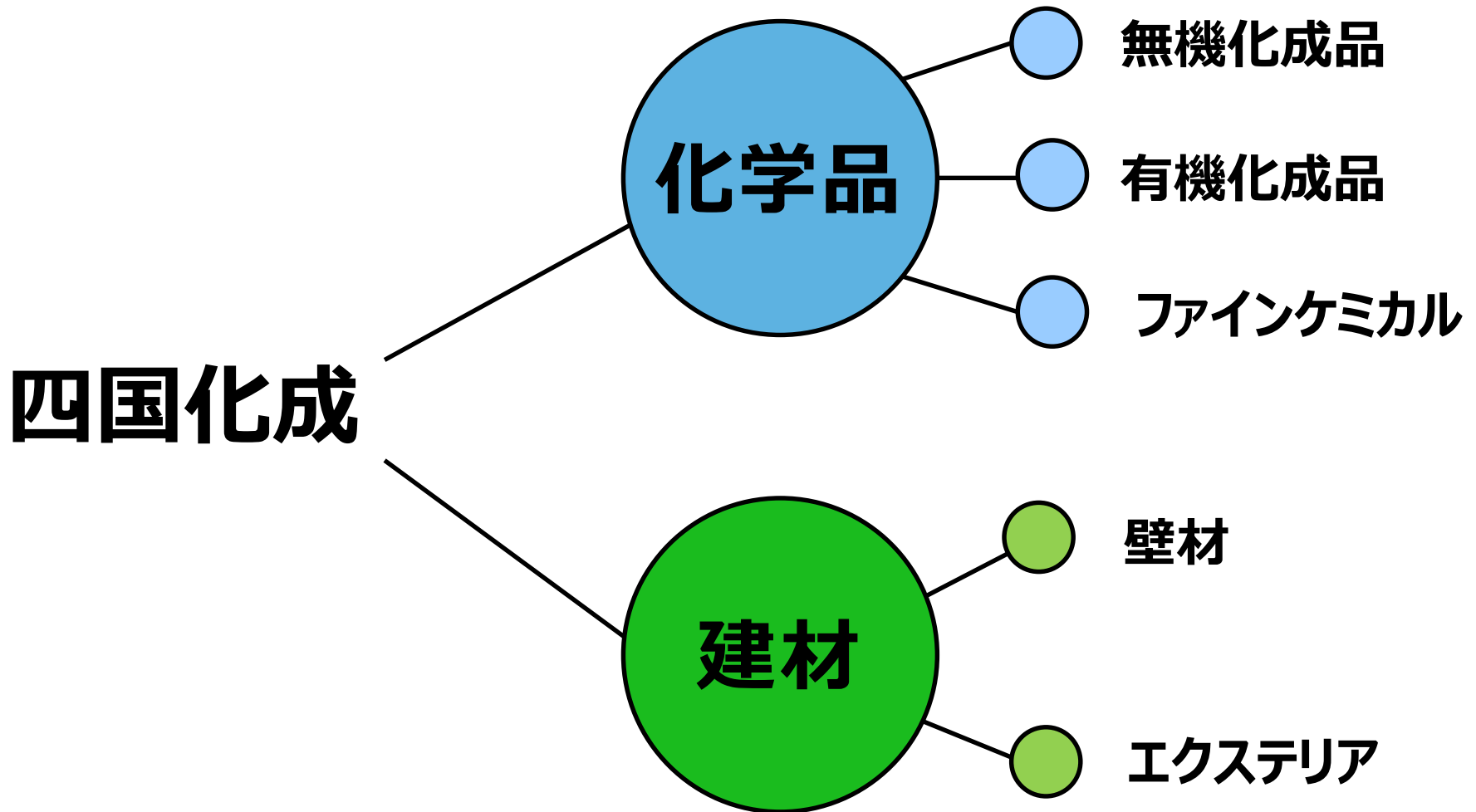
V - 1. 会社概要

2021年9月30日現在

- 商 号 四国化成工業株式会社
- 証券コード 4099（東証1部上場） 業種：化学
- 創 立 1947年10月10日
- 本社所在地 香川県丸亀市
- 社長兼C.E.O. 田中 直人
- 資 本 金 68億67百万円
- 従 業 員 数 1,218名（連結）
- 売 上 高 495億円（連結・2021年3月期）

V - 2. 事業構成

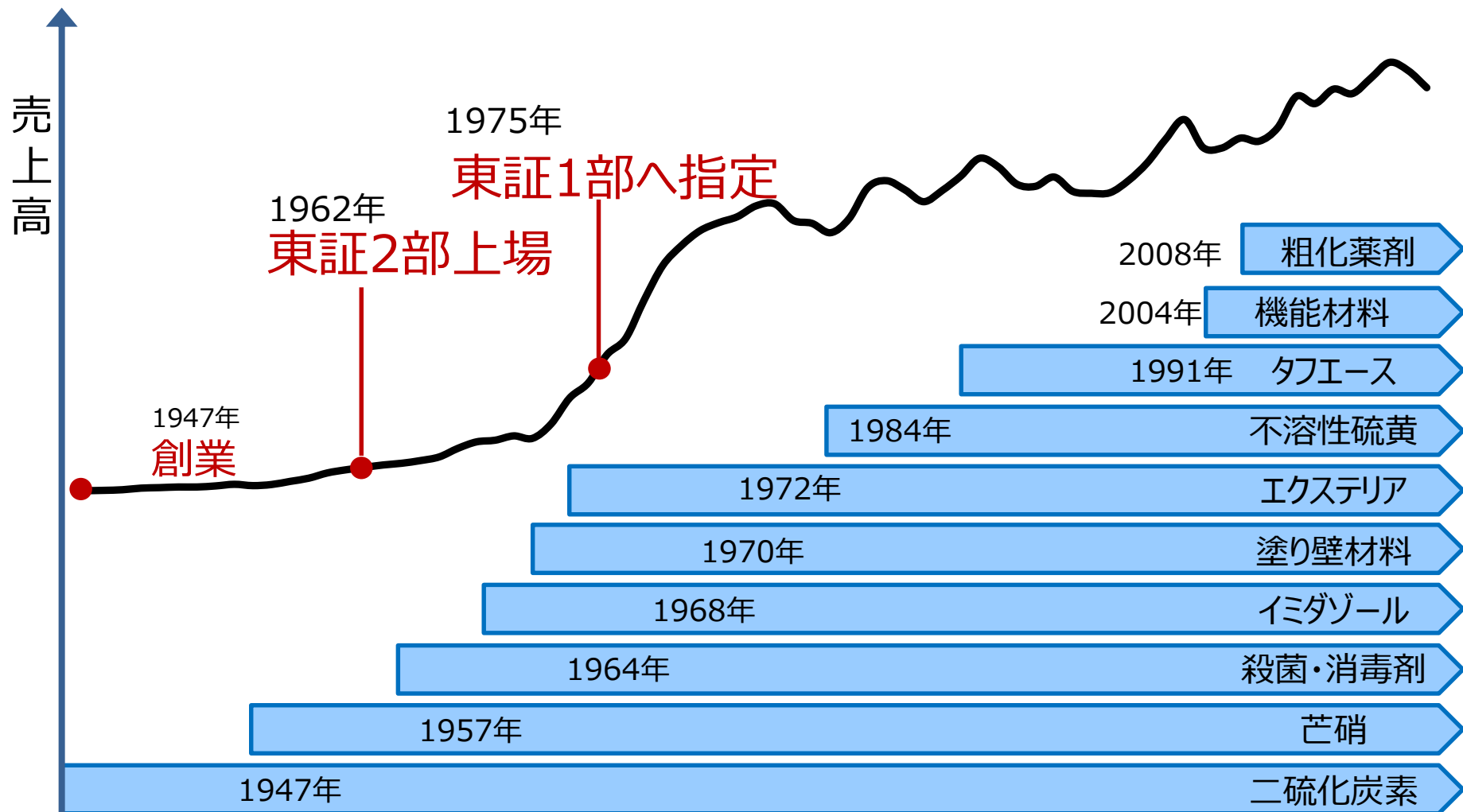
■ 化学品と建材の2つの事業が柱。



V-3. 沿革

1947年10月	香川県丸亀市において、二硫化炭素(⇒無機化成品)の製造を目的に資本金200万円をもって設立
1957年10月	徳島第一工場（現・徳島工場吉成事業所）建設、中性無水芒硝（⇒無機化成品）の操業を開始
1961年 5月	徳島第一工場において、後に壁材の原料ともなるCMCの操業を開始
1962年 6月	徳島第二工場（現・徳島工場北島事業所）建設
10月	東京証券取引所第2部に上場
1964年 5月	徳島第二工場において、塩素化イソシアヌル酸（⇒有機化成品）の初の国産化に踏み切り、操業を開始
1969年12月	プリント配線板などの電子部品用水溶性防錆剤（後のタフエース（⇒ファインケミカル））の販売を開始
1970年 9月	建材部門進出を図り、徳島第二工場において内装壁材（JULUX）の生産を開始
1972年 6月	アコーディオン門扉（⇒エクステリア）の製造・販売を開始
1975年 3月	東京・大阪両証券取引所第1部に指定
7月	香川県多度津町に多度津工場建設
11月	徳島第二工場において、イミダゾール（⇒ファインケミカル）の本格生産を開始（'68年より試験生産）
1981年 6月	ロサンゼルスに駐在員事務所開設（85年にS I Cとして現地法人化）
1984年 7月	丸亀工場において、不溶性硫黄（⇒無機化成品）の生産を開始
1992年 9月	香川県宇多津町に研究センター（現・R & Dセンター）開設
1995年10月	埼玉県嵐山町に嵐山工場建設
2006年 7月	上海に現地法人 四国化成（上海）貿易有限公司 を設立
2008年	プリント配線板用粗化薬剤（⇒ファインケミカル）の販売を開始、丸亀工場にタフエース新プラント建設
2013年 8月	徳島工場に機能材料生産設備(Tokushima Advanced Chemicals Plant-3：通称TAP-3)を建設
2014年 9月	国内唯一の二硫化炭素生産会社である日本硫炭工業（株）を連結子会社化
2015年 4月	台湾及びシンガポールに事務所開設
2016年10月	R&Dセンターに物性評価棟を建設
2017年 3月	不溶性硫黄生産設備を増強
2017年 4月	日本工機（株）を子会社化
2021年 7月	徳島工場に機能材料生産設備(Tokushima Advanced Chemicals Plant-4：通称TAP-4)を建設

V-4. 沿革と売上高推移

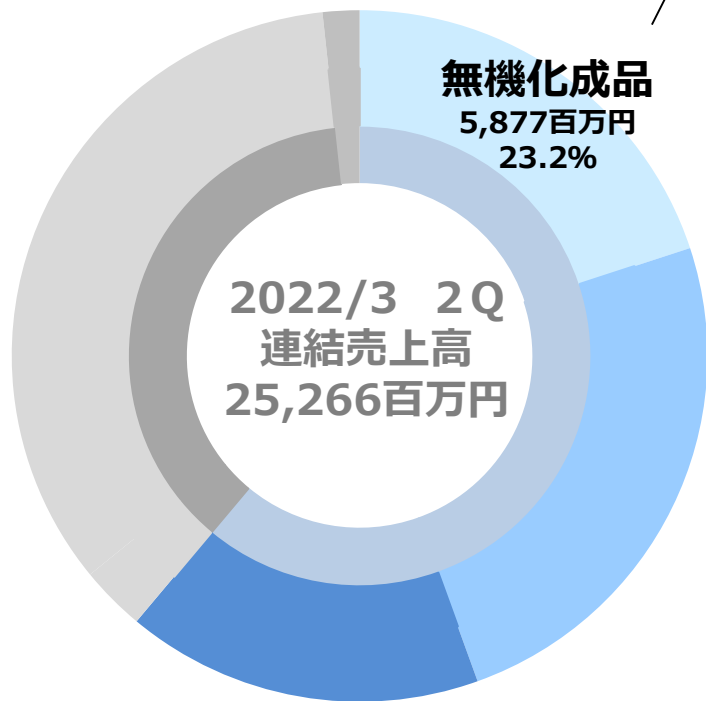


化学品事業

化学品事業

①無機化成品

V - 5. 無機化成品



【主要製品】

- 二硫化炭素 … 化学繊維レーヨンの必須材料
- 不溶性硫黄 … ゴム加硫剤
- 無水芒硝 … 入浴剤の温浴効果促進剤
合成洗剤の洗浄助剤



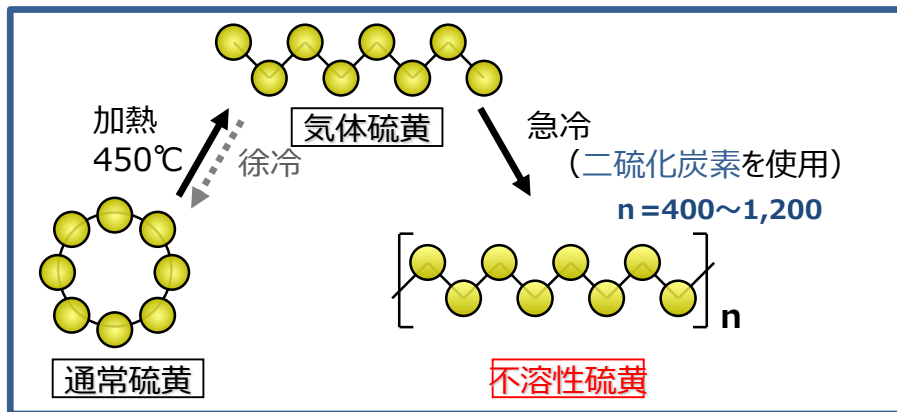
V - 6. 不溶性硫黄 - 製品紹介 -

- 用途：ゴム加硫剤
- 主要顧客：国内外のタイヤメーカー
- 原料のゴムは硬い状態であり、硫黄を加えて加熱（加硫）することで、伸びて縮む特性を持つようになる。
- ラジアルタイヤの生産工程で通常硫黄を使用した場合、ゴムの表面に硫黄がブルーミング（析出）し、ゴムの接着不良の原因となる。
不溶性硫黄は、原料ゴムに分散状態にいるため、ブルーミングを抑制できる。
- 不溶性硫黄の生産には、創業製品である「二硫化炭素」の高い取り扱い技術が必要である。
- 不溶性硫黄は、タイヤメーカーから高い品質が求められている。
- 2017年3月、生産設備の増設が完了し、生産能力を1.3倍に増強した。

■ 不溶性硫黄



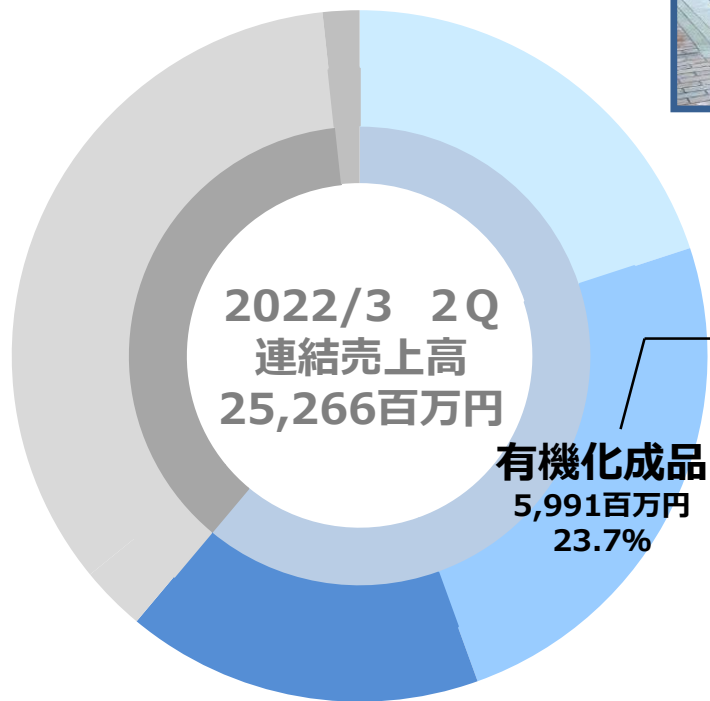
■ 不溶性硫黄の製造工程（模式図）



化学品事業

②有機化成品

V-7. 有機化成品



【主要製品】

- イソシアヌル酸誘導体 …プール・浄化槽の殺菌消毒剤 (ネオクロール)
- ハイポルカ …排水・汚泥処理剤



V - 8. ネオクロール - 製品紹介 -

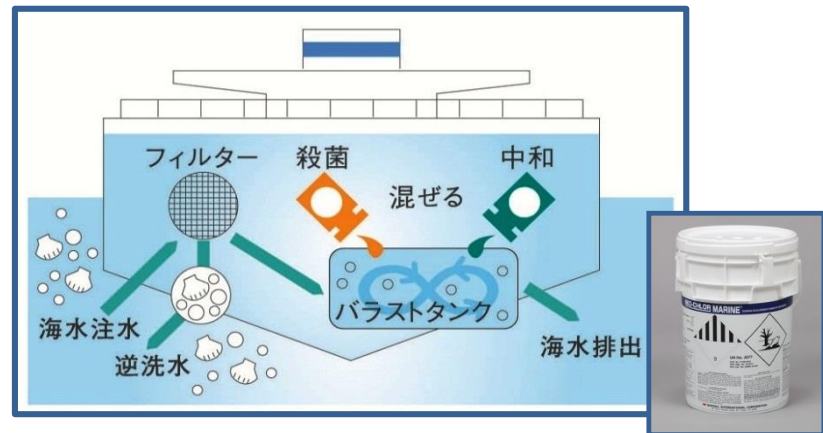
- 用途 : プール・浄化槽の殺菌消毒剤、業務用風呂・家庭用の塩素系衛生処理剤
- 主要顧客 : プール業者、学校、一般消費者（米国）
- 主成分 : 塩素化イソシアヌル酸
- プール用殺菌消毒剤「ネオクロール」は、他のプール用殺菌剤に比べ紫外線による分解が少なく、屋外プールでも長持ちする点や、長期間保存しても品質低下がほとんどない点が特長。
- プールや業務用風呂の自動塩素管理システム「ナピックス」で強みを持つ。
- 塩素が持つ強力な酸化・漂白・洗浄力を活かして、業務用・家庭用のサニタリー分野や、バラスト水（船底に積む重石として用いられる海水）処理、飲料水用途、各種施設での衛生管理用途などの様々な分野に展開中。

■ ネオクロール 製品群



塩素化イソシアヌル酸

■ バラスト水殺菌のイメージ

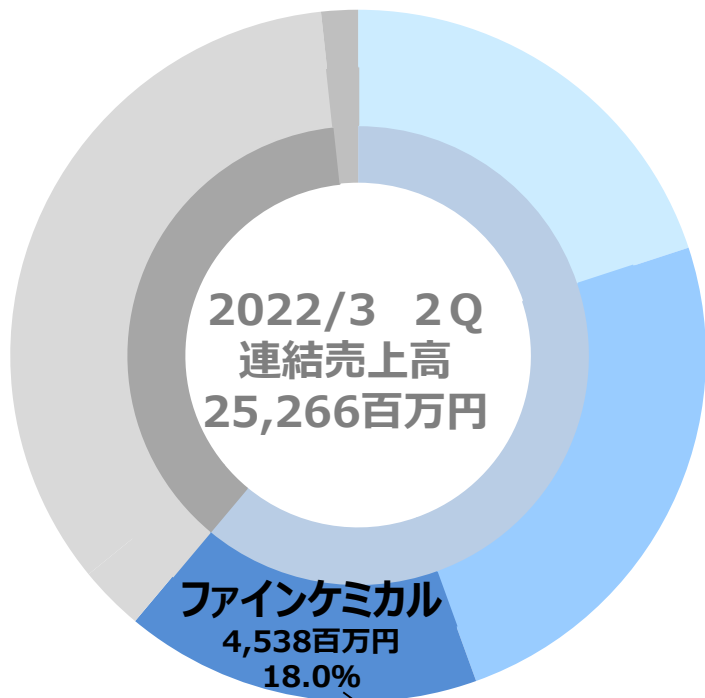


「ネオクロールマリン」荷姿

化学品事業

③ファインケミカル

V-9. ファインケミカル



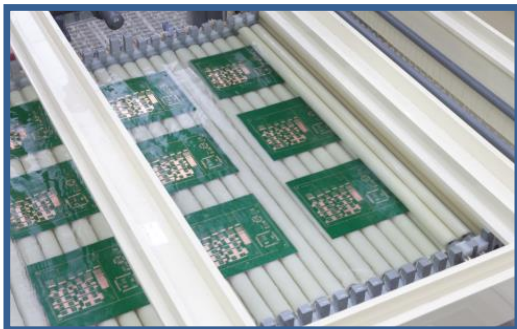
【主要製品】

- タフエース … プリント配線板向け水溶性防錆剤 (OSP)
- 機能材料 … イミダゾール類 (エポキシ樹脂の硬化剤) 樹脂改質剤、医薬品原料
- セイク … 耐熱電線ワニスの原料
- インク類 … ソルダーレジスト

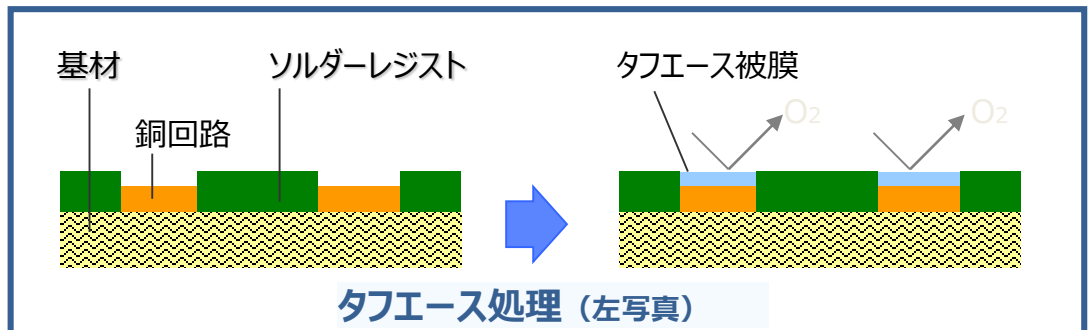
V-10. タフエース-製品紹介-

- 用途 : プリント配線板向け水溶性防錆剤
〔OSP : Organic Solderability Preservative〕
- 主要顧客 : 世界のプリント配線板メーカー
- **プリント配線板**の銅回路上に有機皮膜を形成し、露出した銅回路が酸化するのを防ぐことで、実装工程で良好なはんだ付け性を確保し、信頼性の高い電子部品製造に貢献する。
- OSPの主成分は、銅へ選択的に化学反応する特性を持つイミダゾール。当社はイミダゾールメーカーでもあり、OSPの要求特性にあわせて主成分を合成できる点が強み。
- プリント配線板の防錆剤は、OSPの他にも金属めっき等があるが、OSP比率は過半を占め、なお上昇中。
- タフエースは主要電機メーカーの材料指定を多数取得し業界標準に。他社に先んじて環境性能を高め、**自動車用電装部品**や**半導体パッケージ基板**でも採用実績が増加中。

■ タフエース処理槽を通るプリント配線板



■ タフエース処理 (模式図)

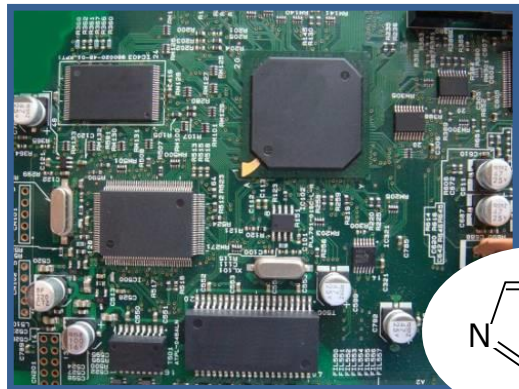


V-11. 機能材料-イミダゾール類

- 用途：エポキシ樹脂※の硬化剤・硬化促進剤、医薬品原料
- 主要顧客：樹脂材料メーカー、医薬品メーカー
- イミダゾールはエポキシ樹脂・ウレタン樹脂などの硬化剤、医農薬原料、防錆剤など各種工業薬剤の原料などに幅広く使用される。
- 当社売上高の大半はエポキシ樹脂硬化剤用途。
イミダゾールを配合したエポキシ樹脂は、電気・電子部品用途に最適な特性を持つ。
- 多品種のイミダゾールを揃え、ユーザーの求める多様な硬化速度・性質に対応。
- 競合品（非イミダゾール系）が強かった分野で、製品の性能向上のため顧客がイミダゾールを新たに採用する動きがある。

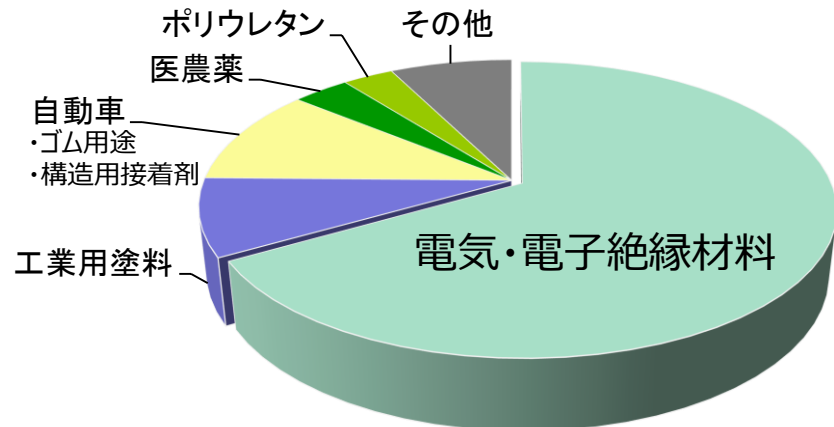
※ エポキシ樹脂：分子の末端に反応しやすいエポキシ基をもつ樹脂状の化合物、およびその化合物と硬化剤と重合させて生じる熱硬化性合成樹脂の総称。接着剤のほか、プリント配線板、塗料などに用いられる。

■ エポキシ樹脂が使われる電子部品（例）



イミダゾール

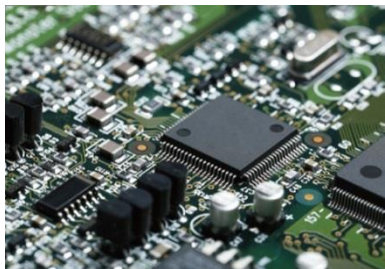
■ 当社イミダゾール類の用途



V-12. 機能材料-イミダゾール類

エンジンのCPU

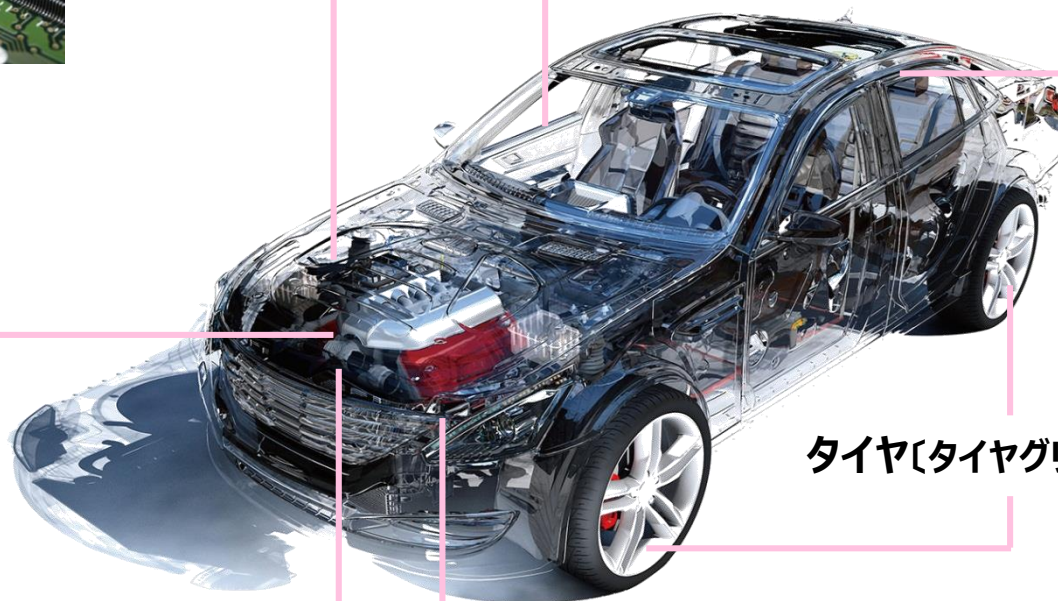
〔積層板、封止材、ソルダーレジストインク〕



ボンネット

〔CFRP（強化炭素繊維）〕

カーナビ〔液晶シール材〕



電装モーター

〔絶縁粉体塗料〕



骨組み部

〔構造用接着剤〕

タイヤ〔タイヤグリップ向上薬剤〕

エアース

〔アクリルゴム薬剤〕



V-13. 注力製品（プリント配線板薬剤）

■ GliCAP®（グリキャップ）

- プリント配線板の銅回路と樹脂の密着性向上剤。
- 従来は、銅を粗化（エッチング）することで表面に凹凸をつくり、“機械的結合”（アンカー効果）で樹脂との密着性を向上させてきた。
- 半導体の高性能化につれて、高性能な半導体を実装するパッケージ基板では、銅回路幅が超微細化し、銅の粗化が困難になりつつある。
- 第5世代移動通信システム（5G）の実用化に向けて、更なる高速化が求められる高周波用サーバー基板では、高周波領域で銅表面の凹凸形状を受けて伝送損失が生じるため、平滑な表面の銅回路が求められている。
- GliCAP®は、「樹脂と強く結合する性質」と「銅と強く結合する性質」の両特性を合わせ持ち、銅表面を粗化することなく、“化学的”に密着力を向上できる。
- GliCAP®は、将来的にはプリント基板以外の市場への応用も視野に入れている。



V-14. 注力製品（機能材料）

■ 機能材料類

- 当社における機能材料とは、電子機器類に使用されている半導体等の電子部品の材料に配合する事で様々な機能性を向上できる製品（化合物）。
- 電子機器類の進化に伴い、使用される樹脂材料の特性向上（耐熱性や電気特性等）が求められており、当社の機能材料が検討される機会が増えている。
- 当社の機能材料の検討範囲は多岐にわたり、自動車や航空機等の構造材として使用される炭素繊維強化プラスチック（CFRP）でも、耐熱性や強度の向上を目的に検討が進んでいる。
- 当社は、イミダゾールやイソシアヌル酸で培った有機合成技術を活かし、新たな機能材料製品を研究開発していく。
- 最先端半導体プロセス材料などに向け、低金属管理などの高い品質に対応した設備を持つプラントの新設を決定。
2021年4月に竣工し、7月より稼働を開始した。



TAP-4（徳島工場）

V-15. 注力製品（機能材料）

■ 新規イソシアヌル酸誘導体

- 当社が蓄積してきたイソシアヌル酸合成技術を活用して開発した。
- 耐熱性・耐光性・透明性に優れ、封止材料などの改質剤に使用されている。

■ 新規密着性付与剤

- 樹脂に添加することにより、金属などの無機材料との密着性を改善することができる樹脂改質剤。従来の改質剤と同等の密着性が得られ、硫黄を含まないため従来品の課題であった金属腐食性を改善できる。
- 電子部品に多く使われるエポキシ系をはじめ、アクリル系、ウレタン系、ポリイミド系など幅広い樹脂材料へ展開を図っている。

■ ベンゾオキサジン

- 耐熱性・難燃性・電気特性に優れた樹脂。
- 炭素繊維強化プラスチック（CFRP）や半導体の封止材向けで検討が進んでいる。

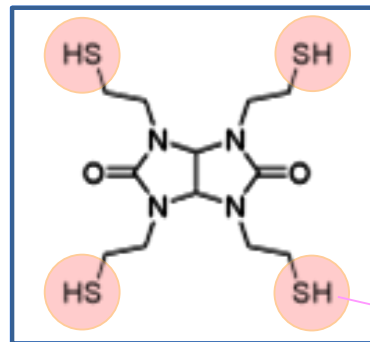
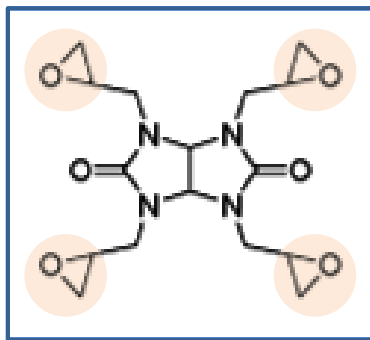
■ ベンゾオキサジン



V-16. 注力製品（機能材料）

■ グリコールウリル誘導体

- 多官能・透明・高耐熱性の樹脂改質剤。
- 4つの官能基を持ち、高架橋密度の硬化物が期待できる。



チオール基

■ グリコールウリル誘導体



グリコールウリル誘導体（一部）

- 官能基にチオール基（-S H）を有する製品は、低温で速やかにエポキシ樹脂と硬化する。従来の改質剤と比べ、硬化した樹脂の耐熱性、耐湿性、耐酸性、耐アルカリ性、硬度に優れ、課題であった耐熱性、耐湿性を大幅に改善できる。
- 高性能化や小型化が進む電子材料分野で、採用されている。

建材事業

建材事業

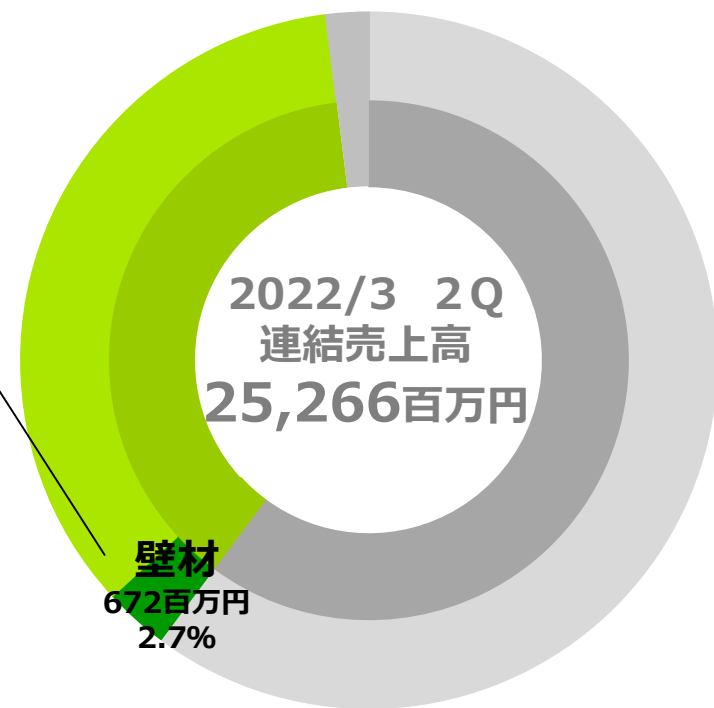
④ 壁材

VI-17. 壁材

【主要製品】



- 内装材（けいそう壁・自然素材壁）
調湿機能、有害な化学物質や生活臭の
吸着・分解機能をもつ塗り壁材
- 外装材
住宅向け湿式外装材
- 舗装材
天然石舗装材、リサイクルガラス舗装材
ゴムチップ舗装材

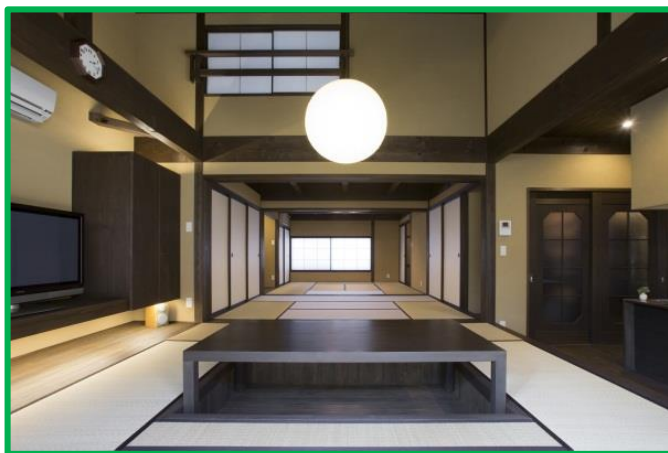


VI-18. 壁材

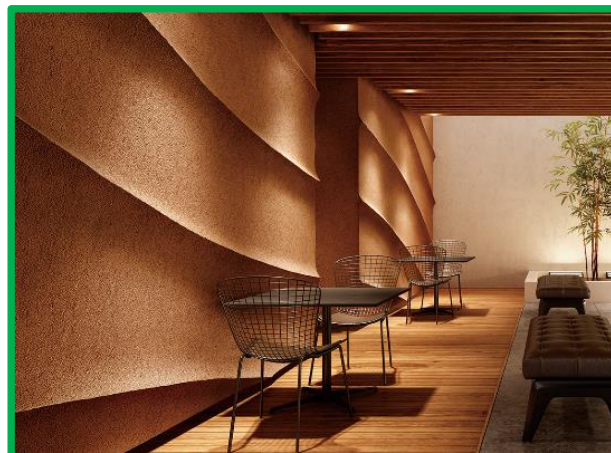
◦ 内装材

- 自社製化学糊料CMCの用途展開として開発した、塗り壁材における日本初の工業製品「JULUX（ジュラックス）」が発祥。
- 日本の伝統的な壁である聚楽壁は取り扱いが難しいが、当社の壁材は所定量の水を混ぜるだけで均一な品質を保つことができる。また、塗り壁はシックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドなどの化学物質やニオイを吸着する性能が高いため、改めて注目されている。
- 商業・公共空間設計やこだわりある注文住宅をターゲット市場とする高意匠性を特長とした商品展開を行っている。厚塗りを活かした立体感と多様な模様付けにより、空間に彩りと表情がもたらされる。

■ けいそうジュラックス土壁（内装材）



■ クレアデコール（内装材）



V-19. 壁材

◻ 外装材・舗装材

- ◻ 建物やエクステリアの外側を覆う「外装」、道路やアプローチの表面を覆い固める「舗装」にも展開。
- ◻ 外装材はカラーを含め豊富なバリエーションがあり、表面のテクスチャーまで手作業で仕上げるため、微妙な表情が可能。舗装材では、天然石、天然砂、ゴムチップ等の素材を揃える。
- ◻ 外装材・舗装材ではエクステリアの商流を活かし、相乗効果を生み出している。

■ 弾性パレットクリームHG (外装材)



■ リンクストーン S (舗装材)



建材事業

⑤エクステリア

V-20. エクステリア

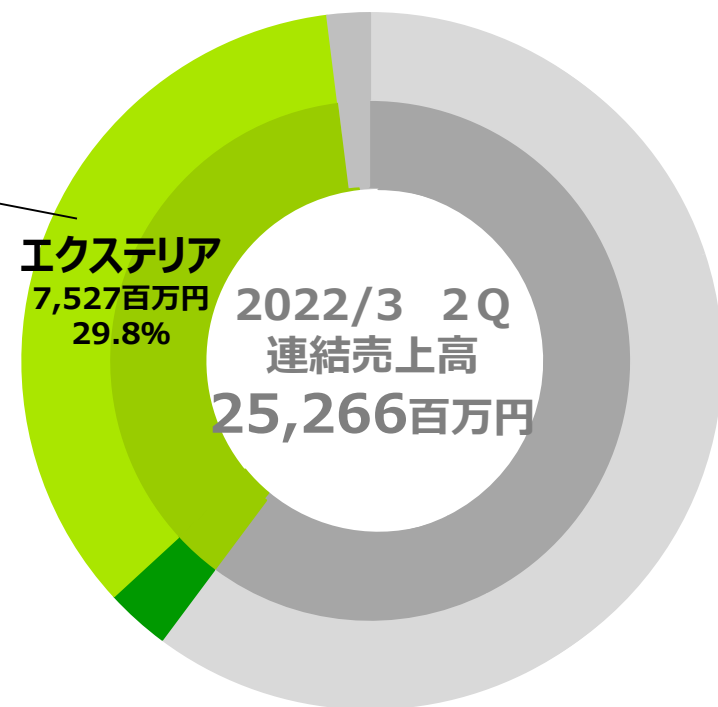
【主要製品】

住宅エクステリア

- 門扉・フェンス・カーポート・デッキ
 - アコーディオン門扉（伸縮門扉）
 - アートウォール（アルミ システム塀）
- 】 **業界初** 当社開発品

景観エクステリア

- 大型門扉・フェンス・通路用シェルター・駐輪場
- ゴミ集積庫（**業界初** 当社開発品）
- 屋上緑化等



V-21. 住宅エクステリア

- 急速にモータリゼーションが進んでいた1971年、伸縮機構で簡単に開閉でき、日本の狭小な宅地事情にも応えた「アコーディオン門扉」を考案、車庫前門扉のスタンダードとなった。
- その後、一般門扉、車庫（カーポート）、フェンス、また、デッキ材やテラスなどに商品ラインナップを強化していった。
- 機能を重視しつつデザインにも注力しており、1984年にはエクステリア業界初の「Gマーク」（現在のグッドデザイン賞）を獲得した。
- フラットな木調の天井材を用いたシンプルで建物と一体感のあるデザインのテラス『ファンルーフ』が2019年度グッドデザイン賞を受賞した。

■ ファンルーフ（テラス）



■ マイポート 7（カーポート）



■ クレディアコー（アコーディオン門扉）



V-22. 景観エクステリア

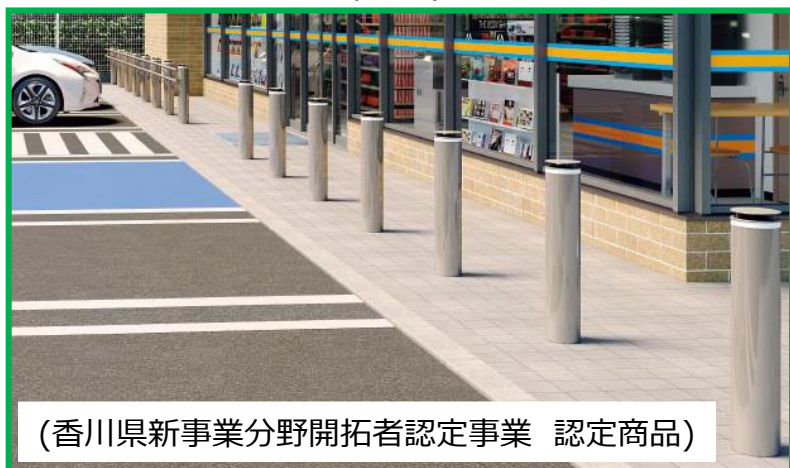
■ ライズルーフⅡ Lタイプ (通路用シェルター)



■ マイルーフ7(セブン) 駐輪場タイプ



■ GTパイル (高強度車止め)



■ ゴミストッカー PS型 (ゴミ集積庫)



V-23. 建材事業の取り組み

- 昨今、台風など大規模な災害が全国で相次いでいることを踏まえ、当社は風雪に強い高強度のエクステリア製品のラインアップを充実し、拡販を進めている。
- 景観分野で培った強度基準・品質を全ての商品へ展開し、建築基準法に準拠した高い品質・強度の製品開発に取り組んでいる。
- 高強度商品のラインナップとして、大型フェンス、アーチウェイ、大型引戸、カーポートに加え、戸建住宅用フェンス、独立テラスの商品化を行っている。

■ 高強度大型フェンス GTFシリーズ



■ メリールーフ 積雪地用



■ マイポートOrigin 積雪地タイプ



■ 高強度大型引戸 スタックラインGT



■ 独立テラス スマートトップ 高強度用



長期ビジョン

V-24. 事業変革方針

化学品事業

世界の進歩のために、進化と深化を続ける事業

ありたい姿

戦略シナリオ

無機

取り扱いが難しい素材を循環的に活用し、世界の技術革新、環境保全に貢献する事業

硫黄取り扱い技術、合成反応評価技術を蓄積。硫黄活用を起点として新たな価値を創出し、事業領域を拡大する。

有機

環境・衛生を守り、世界中の人にキレイを届ける事業

水環境・衛生などの社会課題に応じて顧客ニーズを先取りし、独自技術やサービスで殺菌・洗浄の最適な提案を実現する。

ファイン

独自技術による高機能な製品を提供し、技術の発展に貢献する

ニーズを先取りして独自性があるテーマを確立し、有望顧客とともに技術を確立する。蓄積した独自技術をもとに高機能な製品を開発。

新技術で世界のスタンダードを創出

市場動向を見据えたテーマを設定し、強みを活かした製品開発を行う。顧客目線のトータルソリューションを提案していく。

V-25. 事業変革方針

建材事業

未来の暮らしをデザインし、
笑顔でらせる世界の街づくりに貢献

ありたい姿

未来の暮らしをデザインし、
笑顔でらせる世界の街づくりに貢献

価値提供プロセス

デザイン性と機能性を追求した独創的な製品で
国内外の多様な人財やエンジニアをひきつけ、
獲得する

独自の製品カテゴリーで提携推進、世界に展開

建材

V-26. 全社変革方針

■ 2030年の目指す姿の実現に向け6つの全社変革方針を設定し、全グループを挙げて推進していく

2030年に
目指す姿

独創力で、“一歩先行く提案”型企业へ

独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界の進歩をリードする

全社
変革
方針

① 価値づくり

ブランド価値の向上と 新しい事業への挑戦

- 四国化成品質の向上
- 新規事業やそのアイデアを誰もが提案し挑戦できる仕組みを確立

② 余力づくり

変革リソース確保に向けた 効率化実現

- 無駄の排除と業務の簡素化・標準化
- IT等の技術活用による効率化
- 人員の最適配置と働き方の見直し

③ 拠点づくり

世界への足場づくりと 世界展開の加速

- 全社拠点戦略の策定
- 国内での生産・開発・販売拠点の最適化
- 海外での生産・開発・販売拠点の最適化

④ 組織づくり

ビジョン実現に向けた グループガバナンス体制の確立

- 最適なグループガバナンス体制の構築
- 海外展開に対応したグループガバナンス体制の確立

⑤ 風土づくり

多様性を認め、挑戦を 後押しする風土の醸成

- “提案型スタイル”の従業員への浸透
- “提案型”を育てる風土の醸成
- 多様な働き方に対応した就労環境の整備

⑥ 人財づくり

個人の挑戦を促し、 公正に評価する仕組みの構築

- 求める人財を惹きつける採用の仕組み確立
- 一人ひとりを尊重した成長の場づくり
- 評価体系改定と運用強化

V-27. 四方よし—ステークホルダーへの貢献—



お問い合わせ先

四国化成工業株式会社 社長室

TEL : **0877-21-4119**

FAX : **0877-22-0411**

www.shikoku.co.jp

【本資料に関する注意事項】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現在入手している情報や予測に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり売買の勧誘を目的としたものではありません。当社では投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。